

1. 略歴

- 1992年4月 東京都立大学人文学部 入学
1996年3月 東京都立大学人文学部 卒業
1996年4月 東京都立大学大学院人文科学研究科国文学専攻 修士課程 入学
1998年3月 東京都立大学大学院人文科学研究科国文学専攻 修士課程 修了
1998年4月 東京都立大学大学院人文科学研究科国文学専攻 博士課程 入学
1999年3月 東京都立大学大学院人文科学研究科国文学専攻 博士課程 退学
2005年4月 東北大学大学院文学研究科言語科学専攻国語学専攻分野 博士課程後期 入学（社会人枠）
2008年3月 東北大学大学院文学研究科言語科学専攻国語学専攻分野 博士課程後期 修了
博士（文学）（東北大学）
1999年4月 東京都立大学人文学部 助手（2005年4月、公立大学法人首都大学東京に改組）
2007年4月 広島大学大学院教育学研究科国語文化教育学講座 講師
2009年4月 広島大学大学院教育学研究科国語文化教育学講座 准教授
2020年4月 東京大学大学院人文社会系研究科 准教授

2. 主な研究活動

a 主要業績

(1) 博士論文

『富山県方言の文法に関する研究』, 東北大学, 2008年3月, 全198頁

(2) 著書

単著, 『富山県方言の文法』, ひつじ書房, 2016年3月, 全363頁

共編著書, 『日本語学の教え方: 教育の意義と実践』, 福嶋健伸・小西いずみ編著, くろしお出版, 2016年6月, 全272頁, 「はじめに」 pp.iii-xii, 「アンケート調査実習を通して日常の言葉を日本語学の俎上にのせる」 pp.155-173, 「おわりに」 pp.251-253.

(3) 論文

単著

「富山市三郷地区方言における談話資料と特徴的方言事象の報告: 文法的側面を中心に」, 東京都立大学国語国文学会『都大論究』34号, pp.39-50, 1997年5月

「富山県における指定辞ジャ・ダ・ジャ・ヤの分布と変遷」, 国立国語研究所『日本語科学』5号, pp.46-65, 1999年4月

「指定辞ジャからヤへの移行における一現象: 撥音前接時におけるジャの多用」, 東京都立大学日本語研究会『日本語研究』19号, pp.30-38, 1999年4月

「東京方言が他地域方言に与える影響: 関西若年層によるダカラの受容を例として」, 東京都立大学日本語研究会『日本語研究』20号, pp.19-34, 2000年4月

「奈良田方言アクセントの現在: 東京式アクセントの習得・併用と従来アクセントの変化」, 東京都立大学人文学部『人文学報』320号, pp.25-40, 2001年3月

「文法の調査法〈その1〉—語の形態的側面についての調査—」大修館書店『月刊言語』30巻4号, pp.102-106, 2001年3月

「富山県下新川方言の形容詞における二つの連用形: 「タカナル」と「タカナト アゲル」」, 東京都立大学国語国文学会『都大論究』38号, pp.63-71, 2001年6月

「富山県笹川方言における形容動詞述語形式: 名詞述語と異なる「〜ナ」「〜ナクッタ」等を中心に」, 国語学会『国語学』52巻3号, pp.30-44, 2001年9月

「サ行動詞イ音便化の例外語について: 富山市方言の場合」, 地域言語研究会『地域言語』13号, pp.1-8, 2001年9月

「サ行動詞イ音便化の例外語について: 山梨県奈良田方言の場合」, 『山梨ことばの会会報』12号, pp.1-10, 2002年2月

「会話における「ダカラ」の機能拡張: 文法機能と談話機能の接点」, 社会言語科学会『社会言語科学』6巻1号, pp.61-73, 2003年9月

- 「富山県方言の文法：地理的分布と記述研究の視点から」真田信治（監修），中井精一・内山純蔵・高橋浩二（編）『日本海沿岸の地域特性とことば：富山県方言の過去・現在・未来』pp.28-50, 桂書房, 2004年3月
- 「富山・金沢方言における形容詞の副詞化接辞「ナト・ラト」と「ガニ」：方言にみられる文法化の事例」,社会言語科学会『社会言語科学』7巻1号, pp.63-74, 2004年9月
- 「石川県小松市松岡町方言における形容詞・形容動詞の活用」,東京都立大学日本語研究会『日本語研究』25号, pp.75-90, 2005年3月
- 「松本清張『砂の器』における「方言」と「方言学」」,東京都立大学国語国文学会『都大論究』42号, pp.74-86, 2005年4月
- 「方言文法—引用表現に由来する主題提示の形式を題材に一」,学燈社『国文学解釈と教材の研究』50巻5号, pp.100-107, 2005年5月
- 「特集：地図に見る方言文法—日本語の文法現象の多様性— 静かだ」,大修館書店『月刊言語』35巻12号, pp.48-51, 2006年12月
- 「『方言文法全国地図』における回答語形数」,明治書院『日本語学』26巻11号, pp.35-43, 2007年9月
- 「新時代の方言調査法」,『シリーズ方言学 第4巻 方言学の技法』pp.1-38, 岩波書店, 2007年12月
- 「スポーツにおける「技（わざ）」」,明治書院『日本語学』27巻9号, pp.4-11, 2008年8月
- 「富山市方言における用言のアクセント：終止連体形の音調交替を中心に」,『山口幸洋博士古希記念論文集 方言研究の前衛』pp.213-233, 桂書房, 2008年9月
- 「西日本方言における引用標識ゼロ化の定量分析：生起頻度と言語内的要因の方言間異同」,『広島大学大学院教育学研究科紀要 第二部 文化教育開発関連領域』59号, pp.123-132, 2010年12月
- 「Word, Excel, テキストエディタで行う日本語データ処理の基礎」, 荻野綱男・田野村忠温（編）『講座ITと日本語研究 2 アプリケーションソフトの基礎』pp.95-130, 明治書院, 2011年5月
- 「出雲方言における「一段動詞のラ行五段化」に関する覚書」, 広島大学国語文化教育学講座『論叢国語教育学』7号, pp.49-60, 2011年7月
- 「富山方言における引用表現由来のとりたて・提題助詞「チャ」」, 東北大学大学院文学研究科国語学研究室『国語学研究』51号, pp.1-19, 2012年3月
- 「西日本方言における「と言う」「と思う」テ形の引用標識化」, 藤田保幸（編）『形式語研究論集』pp.301-317, 和泉書院, 2013年10月
- 「西日本方言における尊敬形「～テ（ヤ・ジャ・ダ）」の活用」, 小林賢次・小林千草（編）『日本語史の新視点と現代日本語』pp.400-417, 勉誠出版, 2014年3月
- 「富山市方言の「ナーン」：否定の陳述副詞・応答詞およびフィラーとしての意味・機能」, 友定賢治（編）『感動詞の言語学』pp.115-131, ひつじ書房, 2015年2月
- 「広島市方言の対格標示：談話資料による計量的把握」, 広島大学国語教育会『国語教育研究』56号, pp.259-270, 2015年3月
- 「富山市方言における終助詞「ヨ」」, 日本方言研究会『方言の研究』1巻, pp.29-52, ひつじ書房, 2015年9月
- 「主体的表現者であるための地域方言・社会方言の学習」, 明治書院『日本語学』35巻2号, pp.52-61, 2016年2月
- 「対照方言学的研究のこれまでとこれから」, 日本方言研究会『方言の研究』2巻, pp.99-116, ひつじ書房, 2016年9月
- 「中国地方における一段動詞の五段動詞化」, 大西拓一郎（編）『空間と時間の中の方言：ことばの変化は方言地図にどう現れるか』pp.162-175, 朝倉書店, 2017年5月
- 「富山県方言の「ナ（一）ン」「ナモ」：否定を表す多機能形式の談話での運用」, 小林隆（編）『感性の方言学』, pp.253-271, ひつじ書房, 2018年5月
- 「西日本方言における「と言う」条件形の提題用法」, 藤田保幸・山崎誠（編）『形式語研究の現在』pp.407-425, 和泉書院, 2018年5月
- 「富山市方言の動詞「当たる」：授与自動詞および補助動詞としての用法」, 明治書院『日本語学』38巻4号, pp.22-31, 2019年4月
- 「日本語方言における終助詞の意味・用法と体系：富山市方言・山形市方言・共通語の対照」, 表現学会『表現研究』110号, pp.33-42, 2019年10月

共著（ともに第一著者）

- 「愛媛県西宇和郡三崎町方言の談話資料と分析(1)—談話資料編一」（共著者：間淵洋子）東京都立大学日本語研究会『日本語研究』18号, pp.28-43, 1998年4月

「富山県呉西地方における尊敬形「～テヤ」：意味・構造の地域差と成立・変化過程」（共著者：井上優）日本語学会『日本語の研究』9巻3号，pp.33-46，2013年7月

(4) 解説・その他

「疑問表現」253図「誰かが（知っているだろう）」，同254図「どこかに（あるだろう）」，及びその解説，国立国語研究所（編），『方言文法全国地図 第5集』pp.157-161，財務省印刷局，2002年6月

「断定表現 a（話し手主体）」306～313図，及びその解説，国立国語研究所（編）『方言文法全国地図 第6集』pp.64-76，国立印刷局，2006年3月

「調査に臨む」，小林隆・篠崎晃一（編）『ガイドブック方言調査』pp.125-141，ひつじ書房，2007年11月

〔書評〕「日高水穂著『授与動詞の対照方言学的研究』」，日本語学会『日本語の研究』5巻2号，pp.61-66，2009年4月

「[2012年・2013年における日本語学界の展望 地域言語・方言]」，日本語学会『日本語の研究』10巻3号，pp.93-100，2014年7月

「列島縦断！日本全国イチオシ方言 富山県」，明治書院『日本語学』33巻12号，pp.86-87，2014年10月

「73図 出した」pp.146-147，「118図 先生だ」pp.236-237，大西拓一郎（編）『新日本言語地図：分布図で見渡す方言の世界』，朝倉書店，2016年12月

「方言の形式語関係文献目録」，藤田保幸・山崎誠（編）『形式語研究の現在』pp.577-589，和泉書院，2018年5月

(5) 科学研究費補助金報告書

「方言文法調査ガイドブック2」大西拓一郎（編）、平成14年度～平成17年度科学研究費補助金 基盤研究(B)研究成果報告書（課題番号14310196），2006（平成18）年3月：「主題」pp.3-24，「疑問表現」（井上優との共著）pp.189-209，「原因・理由表現」（前田直子・日高水穂・船木礼子との共著）pp.231-252.

「方言における文法形式の成立と変化の過程に関する研究」大西拓一郎（編），平成14年度～平成17年度科学研究費補助金 基盤研究(B)研究成果報告書（課題番号14310196），2006年3月：「富山方言の提題・対比の助詞「チャ」について」pp.59-68.

「全国方言文法辞典資料集(1) 原因・理由表現」方言文法研究会（編），2007-2009年度科学研究費補助金 基盤研究(C)研究成果報告書（課題番号16520403），2010（平成22）年2月：「原因・理由表現の地理的概観」（日高水穂・竹田晃子との共著）pp.17-24，「富山県富山市方言の原因・理由表現」pp.69-77，「富山県立山町方言の原因・理由表現」pp.78-84，「《辞典項目記述》デ（ゼ・ジ）」pp.171-174.

『『全国方言文法辞典』のための条件表現・逆接表現調査ガイドブック』方言文法研究会（編），2009-2010年度科学研究費補助金 基盤研究(B)研究成果報告書（課題番号21320086），2010年9月：「逆接表現の全国分布概観」（竹田晃子との共著）pp.45-55.

「全国方言文法辞典資料集(2) 活用体系」方言文法研究会（編），2009-2013年度科学研究費補助金 基盤研究(B)研究成果報告書（課題番号21320086），2014年2月：「活用体系の地理的変異と記述の枠組み」pp.1-3，「富山県富山市方言」pp.66-74.

「高校国語科 高次読解力評価のためのハンドブック」広島大学国語学力研究グループ（編），2012-2014年度科学研究費補助金 基盤研究(B) 研究成果報告書（課題番号24330246），2015年3月 執筆箇所：「言語事項の評価問題」pp.21-24，「言語事項の問題の意図とルーブリックの解説」pp.82-91.

「全国方言文法辞典資料集(3) 活用体系(2)」方言文法研究会（編）（編者代表：小西いずみ・日高水穂），2014-2018年度科学研究費補助金 基盤研究(A)研究成果報告書（課題番号26244024），2017年2月：「この報告書における記述の枠組み」pp.1-12，「広島県三次市方言」pp.115-126.

「全国方言文法辞典資料集(4) 活用体系(3)」方言文法研究会（編）（編者代表：小西いずみ・日高水穂），2014-2018年度科学研究費補助金 基盤研究(A)研究成果報告書（課題番号26244024），2018年3月：「この報告書における記述の枠組み」pp.1-12.

「全国方言文法辞典資料集(5) 活用体系(4)」方言文法研究会（編）（編者代表：小西いずみ・日高水穂），2014-2018年度科学研究費補助金 基盤研究(A)研究成果報告書（課題番号26244024），2018年3月：「この報告書における記述の枠組み」pp.1-12.

(6) 学会発表

「富山県における「デア」「ダ」「ジャ」「ヤ」の分布と変遷」，日本方言研究会第62回研究発表会，1996年5月17日，東京都立大学

「指定辞「dea」「デヤ」の音価について」，日本方言研究会第66回研究発表会，1998年5月29日，百合女子大学

「富山県朝日町笹川方言における形容動詞の活用」，国語学会2000年度秋季大会，2000年10月29日，安田女子大学

「動詞活用の通方言的記述法」(パネルセッション「日本語動詞活用の歴史と地理的変異の総合的理解」), 日本語文法学会第12回大会, 2011年12月4日, 東京外国語大学

「富山県西地方における尊敬形「～テヤ」のアスペクトと活用」(井上優との共同発表), 日本語学会2012年度秋季大会, 2012年11月4日, 富山大学

「研究動向の分析 第5期(80～99回:2005～2014年)」(シンポジウム「方言研究の過去・現在・未来」), 日本方言研究会第100回研究発表会, 2015年5月22日, 甲南大学

Object markers in Japanese dialects: focusing on the factor of adjacency to verbs. The Sixteenth International Conference on Methods in Dialectology (METHODS XVI). 8 August, 2017. National Institute for Japanese Language and Linguistics, Tokyo, Japan.

「日本語方言における終助詞の種類・体系と表現特性」(シンポジウム「述語部構造と表現性」), 第56回表現学会全国大会, 2019年6月1日, 明治大学

A pilot comparative study on sentence-final particles in Japanese dialects. Japanese Studies Association of Australia (JSAA) 2019 Conference. 3 July, 2019. Monash University, Victoria, Australia.

(7) 受賞

2014年11月 2013年度日本語学会論文賞(井上優と共同受賞、第一著者)

2017年5月 第34回とやま賞(公益財団法人とやま県ひとづくり財団)

3. 主な社会活動

(1) 非常勤講師

2001年4月 麗澤大学外国語学部 非常勤講師(2007年3月まで)

2001年4月 国立国語研究所研究開発部門第二領域 非常勤研究員(2005年3月まで)

2006年5月 国立国語研究所研究開発部門言語生活グループ 非常勤研究員(2007年3月まで)

(2) 学会

日本語学会(中国四国支部理事 2010年9月～2014年3月;大会企画運営委員 2013年6月～2016年5月;編集委員 2018年6月～現在)

社会言語科学会(学会誌編集委員 1999年4月～2000年7月;大会委員 2010年4月～2013年3月;学会誌編集委員 2015年4月～2019年3月)

日本方言研究会(幹事 1999年4月～2003年3月;事務局員 2010年4月～2011年3月;世話人・総務委員長 2011年4月～2017年5月)

日本言語学会(2000年4月～9月 夏期講座実行委員)

日本語文法学会(学会誌編集委員 2010年4月～2016年3月;大会委員 2019年4月～現在)

(3) 社会貢献

環日本海総合研究プロジェクト平成15年度第2回公開研究会「元気に富山リレー講座」講師(2003年1月)

広島市立中央図書館図書館メイト講演会「若者ことばの今と昔」講師(2008年8月)

社会福祉法人とやま虹の会研修セミナー「現代地域社会における方言」講師(2008年9月)

筑波大学附属駒場中・高等学校講演会「方言の〈文法〉—研究の意義と方法—」講師(2008年12月)

一般社団法人教育ネットワーク中国・広島市・他主催シテカレッジ「方言から見えてくること」講師(2013年11月)

せら成人大学教養講座「知って楽しい日本の方言—話しことばのしくみと歴史—」講師(2014年10月)

富山県朝日町笹川自治振興会講演会「富山県の方言と笹川のことば」講師(2016年10月)

富山県朝日町講演会「富山の方言ちや、どい言葉け—方言のしくみと地域差—」講師(2017年10月)

富山県朝日町調査報告会「笹川の方言の記録と保存—インターネットで聞いて楽しむ—」講師(2018年10月)

2018年度第3回日本海学講座「とやま方言のしくみと歴史」講師(2018年11月)

まつえ市民大学サポーターの会自主企画講座「出雲弁シンポジウム」講師(2018年12月)